

【OS-1】対流圏オゾンと植物の相互作用に多角的にせまる

Various aspects of interactions between tropospheric ozone and plants

■オーガナイザー：

谷晃（静岡県立大食品栄養科学部：atani@u-shizuoka-ken.ac.jp）

高木健太郎（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター：kentt@fsc.hokudai.ac.jp）

和田龍一（帝京科学大学生命環境学部：wada@ntu.ac.jp）

渡辺誠（東京農工大学農学部：nab0602@cc.tuat.ac.jp）

■概要：

大気中の光化学反応で生成される対流圏オゾンは植物の生育を阻害するが、その機序にはいまだ不明な点が多い。他方、植物が放出するテルペン類は、大気中で反応性が高いためオゾン生成する方向に働くが、植物のテルペン類放出にも未知な点が多い。本 OS では、対流圏オゾンと植物の相互作用に関する多様な研究内容について情報交換し、多角的な視点から研究の進展に資することを目指す。J AM 英文誌の出版助成金を用いて、この分野で世界的に著名な Evgenios Agathokleous 博士を招き、基調講演もしていただくとともに、レビューを執筆していただく予定である。

■開催予定日：3 月 18 日午前

■一般募集：行う。

【OS-2】気候変動に頑健な農業生産に向けた農業気象学の貢献

■オーガナイザー：

滝本貴弘（農研機構農環研：takimoto.takahiro125@naro.go.jp）

飯泉仁之直（農研機構農環研：iizumi.toshichika765@naro.go.jp）

増富祐司（国立環境研究所：masutomi.yuji@nies.go.jp）

■概要：本 OS では、農業・食料システムを気候変動に対して頑健にするための研究発表を募集する。募集対象には、作物モデルなど影響モデルの高度化、適応策としての作物監視・予測、気候変動影響のアトリビューション、影響評価の基盤となる作物データセットの改良についての発表などが含まれる。本 OS では、研究の対象地域や時空間スケール、手法について特に制限を設けない。

■開催予定日：未定

■一般募集：行う。

【OS-3】施設園芸の持続可能性と園芸工学

■オーガナイザー：

松田 怜（東京大学農学生命科学研究科：amatsuda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp）

地子智浩（電力中央研究所：jishi@cripi.denken.or.jp）

■概要：わが国の施設園芸は多岐にわたる喫緊の課題に直面している。例えば、農林水産業による温室効果ガス排出量の約 1/3 は燃料の燃焼によるものであり、その主要な排出源の 1 つは施設園芸における暖房であるとされる。また、環境負荷を低減させるための無機成分の循環利用や、デジタル技術を活用した栽培管理のスマート化・効率化の実現も重要な課題である。本オーガナイズドセッションでは、持続可能な施設園芸に向けてさまざまな観点やアプローチで研究を進めている研究者にそれぞれの取組みをご紹介いただき、園芸工学研究の果たすべき役割について議論したい。

■開催予定日：未定

■一般募集：行わない。

【OS-4】Breathing of the biosphere：フラックス観測に基づく生態系機能解析の現状と展望

■オーガナイザー：

伊川浩樹（農研機構北農研：ikawa.hiroki154@naro.go.jp）

平田竜一・岩田拓記・植山雅仁

■概要：近年の観測技術の高度化により、“fluxes everywhere, all the time”（Baldocchi, 2025, Perspectives of Earth and Space Scientists）と形容されるように、フラックス観測は、農業生産、森林管理、生態系サービスの評価、さらには気候変動影響の解析など、多様な分野での応用が期待されている。本セッションでは、フラックス観測そのものの取り組みや、フラックスデータを活用した研究を対象として幅広く発表を募集する。最新の研究動向を共有するとともに今後の展望について議論する。

■一般募集：行う。

【OS-5】GHG 緩和の新たなシーズと展開：メカニズム解明からコベネフィット・トレードオフまで

■オーガナイザー：

小野圭介（農研機構農環研：ono.keisuke373@naro.go.jp）

常田岳志（農研機構農環研：tokida.takeshi884@naro.go.jp）

南川和則（国際農研：minakazu@jircas.go.jp）

■概要：農業分野における GHG 削減目標の達成には、緩和技術の創出と、その社会実装に向けた展開の両輪が不可欠である。本セッションでは、気象を含む環境・植物・微生物の相互作用等のメカニズム解明に基づく新たな緩和シーズの提案から、それらを導入した際の収量・環境・経済性への多面的な影響評価までを幅広く対象とする。基礎から応用まで多様な視点を交え、コベネフィットやトレードオフを科学的に検証することで、持続可能な農業の実現に向けた道筋を議論したい。

■開催予定日：未定

■一般募集：若干名の募集を行う。

